

味の素グループにおけるサステナビリティ情報開示

梶 昌隆

目 次

- | | |
|--|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 味の素グループのサステナビリティの取り組み 2. 味の素グループにおけるサステナビリティ情報開示 | <ol style="list-style-type: none"> 3. 2030ロードマップにおけるサステナビリティ 4. サステナビリティ・エンゲージメント活動の積極的展開 5. サステナビリティ情報開示におけるIRの役割 |
|--|---|

味の素グループでは、サステナビリティを企業の存在意義として位置づけるとともに、事業戦略と一体化させて推進していくASV経営を通じて、中長期で持続的に企業価値を創出し続けていくことを目指している。IR活動では、ASV価値創造ポテンシャルを、無形資産の情報開示も含めて投資家の企業価値評価につながるよう取り組みを推進している。資本市場と企業が志を同じくして、持続可能で豊かな社会を実現していくことを期待する。

1. 味の素グループのサステナビリティの取り組み

まず、はじめに味の素（以下、当社）グループのサステナビリティの取り組みを創業の経緯から振り返ってみたい。今から100年以上前に、東京帝国大学の池田菊苗教授が海藻（昆布）で出汁（だし）をとるとうま味を感じる、そのうま味成分がグルタミン酸ナトリウム（アミノ酸の一種）であることを発見（日本の10大発明の一つ）した。このうま味を活用して当時の日本人の栄養状態や体格の向上を目指す、その池田教授の志に共感し

た起業家である2代鈴木三郎助が産学連携をスタートさせたところから、当社のサステナビリティへの取り組みが始まっている。このうま味成分は、現在でも昆布や鰹節など様々な食材から出汁をとって日常の料理に生かされている。このうま味成分であるアミノ酸を発酵法で効率よく生産することで、食資源利用の効率性を高めサステナビリティに貢献すること、栄養状態の改善という社会課題の解決を目指してグローバルで展開することを通じて、経済価値を生み出すことにつなげていく考え方を、当社ではASV（Ajinomoto Group Creating Shared Value）として受け継ぎ、持続



梶 昌隆（かじ まさたか）

味の素株式会社 グローバル財務部IRグループ長。1991年早稲田大学理工学部卒業。同年4月、三井生命保険入社。三井住友アセットマネジメント、興銀第一ライフ・アセットマネジメントで医薬・食品セクターアナリスト等に従事し、2013年10月に味の素に入社。経営企画部、欧州アフリカ本部勤務を経て、2020年7月より現職。CFA協会認定証券アナリスト。